

311 HRT(ERT)における結合型エストロゲン剤(CEE)の減量に関する検討・第2報
ー骨量、脂質代謝の改善効果についてー

奈良県立三室病院
別府謙一, 河合清五, 新谷雅史

〔目的〕われわれは前回、①結合型エストロゲン(CEE) 0.625mg/day連日投与により約30%の患者に血中E2値100pg/ml以上となる過剰投与例が観察された、②当院薬剤部作製のCEE散剤で安定した減量投与が可能である、③過剰投与と判断された患者に減量投与することにより血中E2値をtherapeutic windowの範囲内に設定できることを報告した。今回はCEE 0.625mg/day投与群(常用量群)と0.4mg/day投与群(減量群)を対象に、骨密度改善効果および脂質代謝改善効果を比較検討した。〔方法〕常用量群44例、減量群48例について6カ月の治療による改善効果を、骨密度はDXA法による腰椎骨密度(LBMD)で、脂質代謝は血清脂質および動脈硬化指数(AI)で検討した。さらにCEE投与患者全体について、血中E2値とLBMD、AIの治療前後比(%)の相関を調べた。〔成績〕血中E2値は常用量群159.4pg/ml、減量群77.9pg/mlであった。治療による変化率は、LBMDは常用量群8.12%、減量群1.21%、T-choは常用量群-3.67%、減量群0.81%、HDL-choは常用量群22.21%、減量群前値1.33%、動脈硬化指数AI(T-cho/HDL-cho)は常用量群-19.10%、減量群0.75%であった。血中E2値との相関ではLBMDの前後比 $=97.18+0.8 \cdot E2$ と正の相関が、AIの前後比 $=115.03-0.24 \cdot E2$ と負の相関があった。〔結論〕骨密度、脂質代謝について、CEE 0.625mg/day投与は改善効果が、0.4mg/day投与は維持効果があることがわかった。またCEEの治療効果は常用量・減量にかかわらず、血中E2値と相関することから、治療目標に合わせて患者個々への投与量の設定の重要性が確認された。

312 酢酸ブセレリン療法に対する骨粗鬆症治療薬併用による骨量減少予防策

鹿角組合総合病院
斉藤正信

〔目的〕酢酸ブセレリン療法の骨量減少予防策として、骨粗鬆症治療薬の併用効果を検討した。〔方法〕ブセレリン単独(B群)13例、乳酸Ca併用(BC群)3例、ViD₃併用(BD群)8例、乳酸Ca+ViD₃併用(BCD群)10例、未治療(C群)19例の計53例を対象とし、QCT法により6ヶ月後の骨量変動を比較した。酢酸ブセレリンは900μg/日、乳酸Caは5g/日、ViD₃はα-カルシドール0.75μg/日とした。各群間には年齢および骨量前値に差はなかった。〔成績〕(1)B群の骨量値は 186.1 ± 40.2 mg/mlから 160.0 ± 48.5 mg/mlへ有意に減少し、減少率は $-14.8 \pm 15.1\%$ であった($p < 0.005$)。 (2)BC群の骨量値は 200.6 ± 50.3 mg/mlから 184.6 ± 43.1 mg/mlへ減少するも有意差はなく、減少率は $-7.7 \pm 1.9\%$ であった。 (3)BD群の骨量値は 171.9 ± 40.5 mg/mlから 162.1 ± 37.9 mg/mlへ有意に減少し、減少率は $-5.5 \pm 5.4\%$ であった($p < 0.05$)。 (4)BCD群の骨量値は 202.7 ± 40.1 mg/mlから 197.2 ± 28.5 mg/mlへ減少するも有意差はなく、減少率は $-1.0 \pm 12.7\%$ であった。 (5)C群の骨量値は 197.0 ± 40.3 mg/mlから 192.6 ± 39.7 mg/mlへ有意に減少し、減少率は $-2.2 \pm 3.4\%$ であった($p < 0.01$)。 (6)B群と各併用群の骨量減少率を比べると、BC群およびBD群とは差はないが、BCD群では有意に低く、骨量減少抑制を認めた($p < 0.05$)。 (7)C群と各治療群の骨量減少率を比べると、BD群およびBCD群とは差はないが、B群($p < 0.0005$)およびBC群($p < 0.05$)では有意に高く、骨量減少を認めた。〔結論〕酢酸ブセレリン療法時の骨量減少予防策として、骨粗鬆症治療薬の併用が有用であり、乳酸Ca+ViD₃併用が最適な併用薬であることが示唆された。